

「女性と日本文化」の授業効果と今後の課題

園田 麻利子, 牟田 京子

要 旨

【目的】大学生が「女性と日本文化」をどのように考えているかを明確にし今後の課題を検討する。
 【方法】調査対象者：A 大学看護栄養学部看護学科1年生 授業「女性と日本文化」を受講した53名 方法：授業終了後に「女性と日本文化をどのように考えるか」1,200文字以上のレポートをプラスアルファ・コンサルティングが提供しているテキストマイニングを使用し分析した。
 【結果】1) 調査参加者は53名、回収率100%であった。2) 日本文化・華道・装道、女性などの単語が頻出された。3) (1) 花を見る・生ける, 相手を敬う・気遣う, 女性が学ぶ・考えることが必要である講義 (2) 日本文化である装道, 寝衣・関わる患者に行く, 心が大切だ・落ちつくに繋がる看護 が全体マップより分析された。
 【考察】学生は、華道・装道という体験による授業に対して、患者・看護・心・相手などの単語を使用してレポートを書いており、看護に繋がるキーワードであった。本授業は、初年次教育として開講したカリキュラムであるが、キャリア教育に繋がっていると考える。看護学科は、キャリア直結型学科であり入学時に職業イメージが明確である場合が多い。しかし、自己同一性の確立という課題のある青年期の学生が、他の発達段階にある他者の看護・ケアを考察しなければならないという課題を担う学科でもある。学生が自己同一性を確立し社会における自己を肯定的に位置づけるためには、能動的に学習に参加する教育の方法の転換が必要であるという課題が示唆された。

キーワード：女性と日本文化, 初年次教育, キャリア教育, 看護系大学の学士課程教育の方法の転換, テキストマイニング

I はじめに

大学全入時代を踏まえ入試形態の多様化が進んだことにより、学生の大学入学時点における基礎学力不足の状況がある。片や、大学における学習は高等学校までの学習と質的に変化している。そのため学生には、高い基礎学力が求められ、このギャップを解決するために高大接続改革と初年次教育が重要である¹⁾とされている。

まず、高大接続改革について述べる。2014年12月22日文部省中央教育審議会答申(以下中教審という)は「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について～すべての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花ひらかせるために～」において、今後の高大接続改革の展望について述べている。中教審は、子供たち一人ひとりに、夢や目標の実現に向けて、自らの人生を切り拓き、他者と助け合いながら、幸せな暮らしを営んでいける力を育むために初等中等教育から高等教育までを通じた教育の在り方として「生きる力」「確かな学力」の重要性を示している。

「生きる力」は、「豊かな人間性」「健康・体力」「確かな学力」を総合した力である。「確かな学力」は、「基礎的な知識及び技能」「これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力」「主体的に学習に取り組む態度」という3つの重要な要素から構成される。高等学校教育及び大学教育においては、義務教育までの成果を確実につなぎ、「生きる力」「確かな学力」を確実に育み、初等中等教育から高等教育まで一貫した形で、一人ひとりに育まれた力を更に発展・向上させることが肝心である。また、高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜における課題も指摘している。それは、知識の暗記・再生に偏りがちで思考力・判断力・表現力や主体性を持って多様な人々と協働する態度など、真の「学力」が十分に育成・評価されていないことであった。これらの課題に対する改革として2つのことが挙げられている。1つは各大学のアドミッションポリシーに基づく、大学入学希望者の多様性を踏まえた「公正」な選抜の観点に立った入学者選抜の確立、2つ目は高等学校教育の質の確保・向上であった²⁾。

次に初年次教育について述べる。文部科学省は、初年次教育の定義を高等学校から大学への円滑な移行

を図り、大学での学問的・社会的な諸条件を成功させるべく、主として大学新生を対象に作られた総合的教育のプログラム。高等学校までに習得しておくべき基礎学力の補完を目的とする補習教育とは異なり、新生に最初に提供されることが強く意識されたもの³⁾と定義している。各大学では、大学で必要になる基礎的知識やスキルを身につけるという目的でレポートの書き方・パソコンの使い方・ゼミを運営し議論のあり方を学ぶなど教育内容は多岐にわたっている^{4,5)}。

2007年国立教育政策研究所が実施した「大学における初年次教育に関する調査」⁶⁾では、初年次教育の実施率は97.0%。領域別には、「オリエンテーション」、「情報リテラシー」、「スタディ・スキル」を90%以上が、「専門教育への導入」は約85%が実施している。このように初年次教育の実施は、拡大しつつ、内容・方法ともに整備され、標準化されつつあると言える⁷⁾。

このような中、大学分科会制度・教育部会が2008年12月に発表した「学士課程教育の構築に向けて」⁸⁾では、大学で身につけるべき学習成果の明確化を求め、アウトカムとして「学士力」を提言した。学士力は、(1)知識・理解(多文化・異文化に関する知識の理解/人類の文化、社会と自然に関する知識の理解)(2)汎用的技能(コミュニケーション・スキル/数量的スキル/情報リテラシー/論理的思考力/問題解決力)(3)態度・志向性(自己管理能力/チームワーク、リーダーシップ/倫理観/市民としての社会的責任/生涯学習力)(4)総合的な学習経験と総合的思考力の4つの能力からなり、大学生が卒業までに獲得することが期待される知識や能力であると提言された。

一方、看護教育において2011年3月11日大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会⁹⁾では今後、すべての看護師等には、主体的に考え行動することができ、保健、医療、福祉等のあらゆる場において看護ケアを提供できる能力を、生涯を通じて獲得していくことが求められる。また、患者・家族にとって最適な医療を効率的に提供するため、チーム医療の調整役として、これまで以上に高度なコミュニケーション能力も要請された。

以上のことから学士課程教育に求められている学士力と看護系大学に求められる人材育成を踏まえて初年次教育を考える必要がある¹⁰⁾。

では、保健・看護領域での初年次教育はどのように実施されているだろうか。豊島¹¹⁾の調査では、授業形式はゼミ型が69.6%が多かった。授業内容としては、「大学と高校の学習の違い」「レポートの書き方」などが多かったが、健康生活・食生活・禁煙の健康管理に関わる基礎情報を取り入れ、その後運動習慣

に向上があったと報告した。

A大学では、2005年より教養豊かな学生の育成を目指した初年次教育として「女性と日本文化」の講義を開講し、2009年より必修科目としている¹²⁾。また、筆者らは、2018年度に「女性と日本文化」の授業評価の検討をした¹³⁾。その中で、量的分析において授業後の得点が高く、自由記述においても授業に対して肯定的な記述が多かったことより授業の効果は得られたと考察した。しかし、A大学生が「女性と日本文化」をどのように考えるかというレポートの分析はしなかった。また、大学教育において華道・装道など実技を体験し、「日本文化」について考察するという報告は見当たらない。そこで、今回学生が記述したレポートを分析し、今後の課題を明確にしたいと考える。

II 目的

大学生が「女性と日本文化」をどのように考えているかを明確にし、今後の課題を検討する。

III 「女性と日本文化」の教育課程における位置づけ、到達目標・授業の展開計画・評価方法・演習方法

A大学の教育課程の構造は、基礎教育科目と専門教育科目の2系列で構成されている。

その中で基礎教育科目は、人間的成長を促す領域と情報を活用し表現力を高める領域で構成され、専門教育科目は、看護の基盤となる領域・看護の軸となる領域と実践力を発揮する領域で構成されている。この構造の中での本授業は、1年生の基礎教育科目の人間の成長を促す領域の女性発達学に位置づけられている。到達目標、授業の展開計画・演習方法・評価方法を表1に示した。

IV 研究方法

- 1) 調査対象者：A大学看護栄養学部看護学科1年生 53名
- 2) 研究方法：「女性と日本文化をどのように考えるか」というテーマで書かれた授業後に提出されたレポートの分析
- 3) 調査時期：2019年12月21日～24日
- 4) 分析方法：エクセルデータ形式でテキストデータ化した。データの分析はプラスアルファ・コンサルティングが提供しているテキストマイニング分析を使用した。今回テキストマイニングで使用したソフトウェアはプラスアルファ・コンサルティングが提供しているクラウド型テキストマイニングツール「見える化エンジン」である。(1)単語頻出分析(2)全体マップ分析(3)ニーズに関する分析を実施した。

表1 「女性と日本文化」の到達目標・授業の展開計画・演習方法・評価方法

到達目標	1 一人の人間として生きている過程において、生活をより豊かにできる 2 美に対する感性を磨くと共に礼節を身につけることができる 3 看護職の基盤となる教養を深める機会となったと感じることができる
授業の展開計画	1回 オリエンテーション、「女性と日本文化」の講義のねらいや授業計画等の概要説明、日本文化の概説の講義 2・3回 華道(1/2) 華道・池ノ坊に関する日本文化の概要の説明 二人で一つのいけばなを創作・創作した作品の鑑賞、体験の発表 4・5回 華道(3/4) 華道・池ノ坊に関する日本文化の概要の説明 一人でいけばなの創作・創作した作品の鑑賞、体験の発表 6・7回 装道(1/2) 浴衣の名称・着装に必要なもの・たたみ方、半幅帯の結び方 挨拶の仕方、玄関の入り方・履物の揃え方の説明、これらの体験 8・9回 装道(3/4) 浴衣のたたみ方、正しい浴衣の着方と脱ぎ方、浴衣の着装、 半幅帯の結び方、物の受け渡し、襖の開け方・閉め方の説明、これらの体験 10・11回 装道(5/6) 浴衣の着装、半幅帯の結び方、美しい着装のポイント 美しい立ち振る舞いの説明、これらの体験 12・13回 装道(7/8) 半幅帯を結び浴衣の着装、お茶の入れ方の実際 14・15回 装道(9/10) まとめ：半幅帯を結び浴衣の着装しお茶を入れ、主人役はお茶・お菓子をお客様に出す体験 お客様役はお茶・お菓子をいただく体験 玄関の入り方・履物の揃え方、物の受け渡し、襖の開け方、閉め方の体験
評価方法	1 演習の参加状況 50% 2 演習日誌・女性と日本文化をどのように考えるか等の提出物 50%
演習方法	1 全学生を学籍番号ごとに4グループ編成、華道は1グループで実施、装道は2グループで実施 2 演習は、華道・装道の専門の講師が各グループを指導 3 各演習終了後に演習について考えたこと・疑問を記入した日誌を次週の月曜日までに提出 4 15回(全て)の演習終了後に「女性と日本文化をどのように考えるか」のレポートを提出

5) 倫理的配慮：

研究対象者に研究の趣旨および方法について説明し、研究参加を断っても成績には一切関係のないこと、研究以外の目的でデータを使用しないこと、得られたデータは個人が特定されないよう配慮すること、得られた結果は発表または投稿することを伝えた。対象者に同意の署名をもらい参加同意とした。

V 結果

1 調査対象者は、53名であった。

高校卒業後、大学入学した者であり就業の体験(アルバイト等は除く)はない者であった。

2 テキストマイニング分析の結果

1) 単語頻出分析(表2)

1位「考える」・「日本文化」が53件、2位「華道」・「女性」が52件、3位「学ぶ」・「装道」が51件、4位「患者」が45件、5位「看護」・「大切だ」が44件であった。

2) 単語頻出上位3位のマッピングの分析

(1)「考える」は、「日本文化、相手、女性、重要だ、大切だ、繋がる、行動する」といった単語が見ら

表2 単語頻出分析

No	単語	品詞	件数
1	考える	動	53
1	日本文化	名	53
2	華道	名	52
2	女性	名	52
3	学ぶ	動	51
3	装道	名	51
4	患者	名	45
5	看護	名	44
5	大切だ	形	44

れた(図1)。「考える」に向かう矢印の向きから、華道・装道・武道という日本文化を「考える」、華道・装道・素晴らしい女性・相手を「考える」、看護・援助行為が重要だと「考える」、看護・気をつける(こと)が大切だと「考える」、学ぶ・経験・ストレス解消が繋がり(る)看護を「考える」。また、矢印の向きから「考えて(る)」行動することを学ぶ・大切だ、という内容であった。

(2)「日本文化」は、「学ぶ、考える、講義、授業、

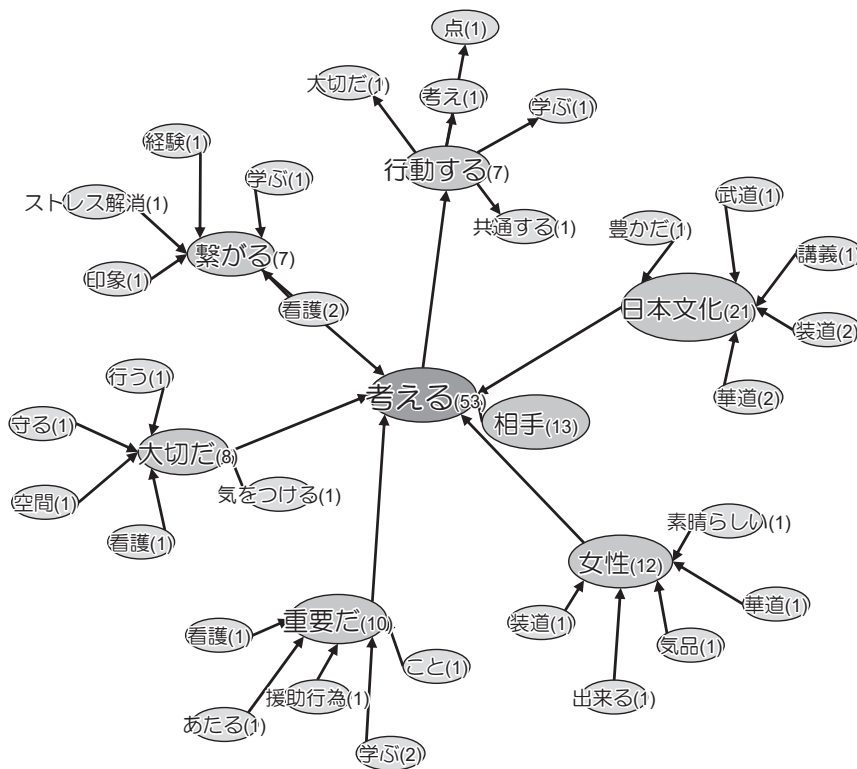


図1 単語マッピング分析(考える)

触れる、知る、華道」といった単語が見られた(図2)。「日本文化」から向かう矢印の向きから、「日本文化」を学ぶことは重要だ・知る・意味(がある)、「日本文化」を考えて(る)活かす・姿(とする)、「日本文化」の講義を受ける・学ぶ、「日本文化」の授業を学ぶ・成長する、「日本文化」に触れる機会・体験する・受け継ぐ、「日本文化」を知る機会・持っていなかったという否定もあった、「日本文化」で華道を学ぶ・経験する・興味という内容であった。

(3)「華道」は、「学ぶ、生ける、日本文化、講義、授業、先生、文化」といった単語が見られた(図3)。「華道」から向かう矢印の向きから、「華道」を学ぶことは重要だ・幸福だ・繋がる、「華道」は生けることを考える・見る、「華道」は日本文化であり奥深い・経験できない、「華道」は講義で一期一会・受ける・生け花、「華道」は授業で生ける・使う、「華道」は文化であり表現するという内容であった。

(4)「女性」は、「講義、学ぶ、考える、授業、今回、受ける、付ける」といった単語が見られた(図4)。「女性」から向かう矢印の向きから「女性」が講義を受ける・学ぶ、「女性」が学ぶ、「女性」が考える、「女性」が授業を受ける・成長するという内容であった。

- 3) 全体マップ(図5)分析
- (1) 花を見る・生けるという講義。
相手を敬う・気遣う講義。
女性が学ぶ・考えることが必要な講義。
 - (2) 日本文化である装道は看護。
寝衣・関わる患者に行う看護。
心が大切だ・落ち着くに繋がる看護。
 - (3) 日本文化を学ぶ・考える、華道を学ぶ。
 - (4) 華道を学ぶ・生ける・日本文化である。
- 4) ニーズに関する分析(表3)
- (1) 1位はできたことで、53件中53件あり、学べる・見ることができる・感じるができると続いた。
 - (2) 2位は、希望することで53件中50件あり、(経験を)活かしたい・(癖を)つけたい・(学んだり、考えたりしたことを活かして)過ごしたいであった。
 - (3) 3位はできなかったことで53件中34件あり、見ることができない・(日本文化には)欠かせない(行事である)、(日本文化と日本の礼儀作法)は切っても切り離せない。
 - (4) 4位から予想外の体験、容易にできる、困難なこと、疑問に思うことが続いた。

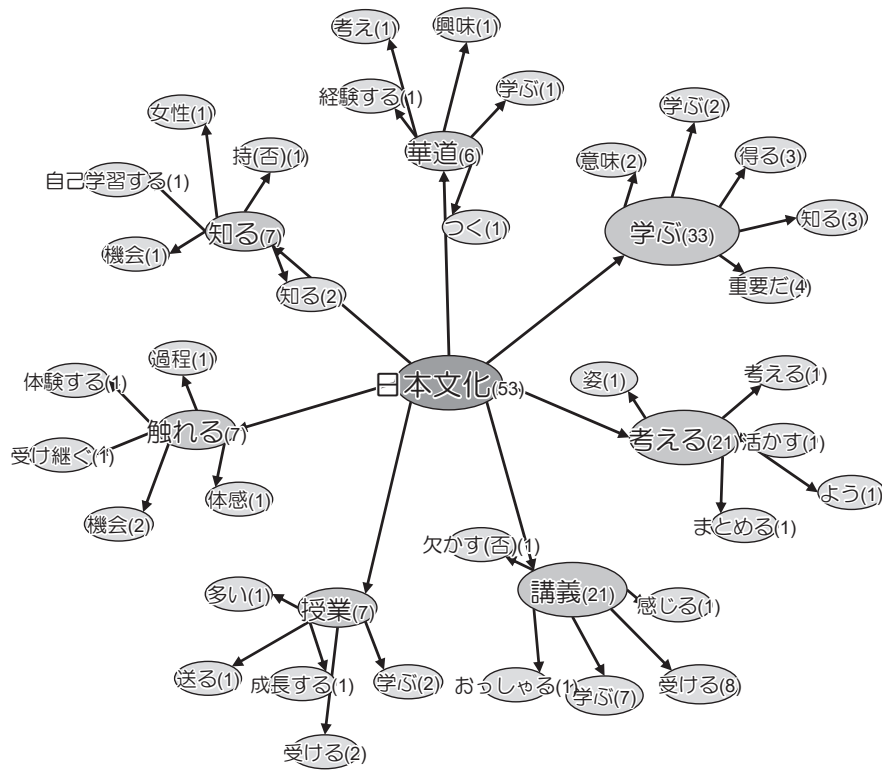


図2 単語マッピング分析 (日本文化)

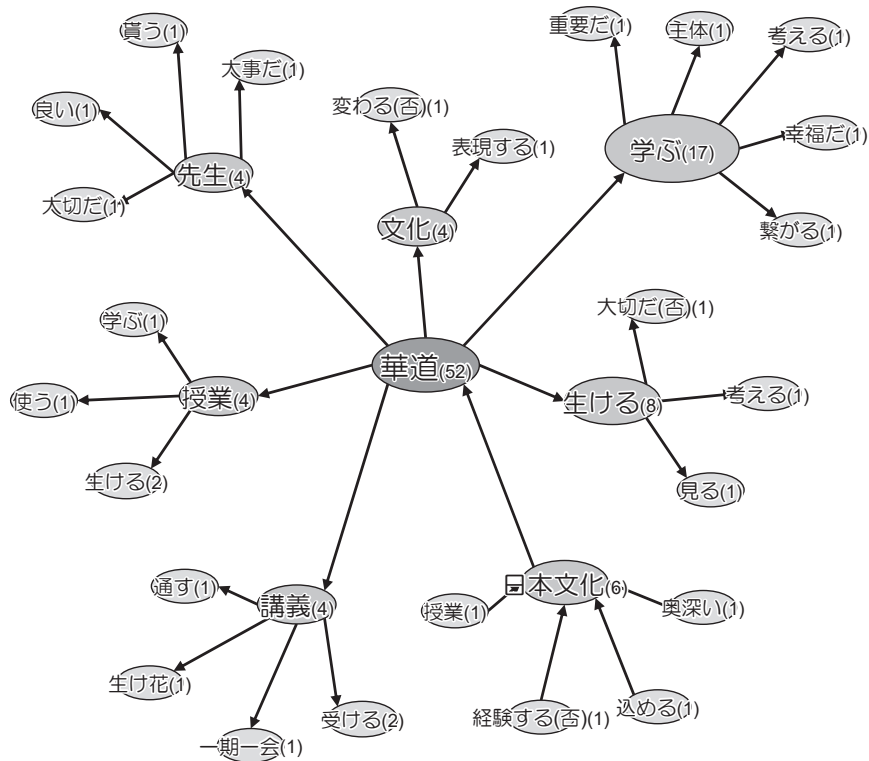


図3 単語マッピング分析 (華道)

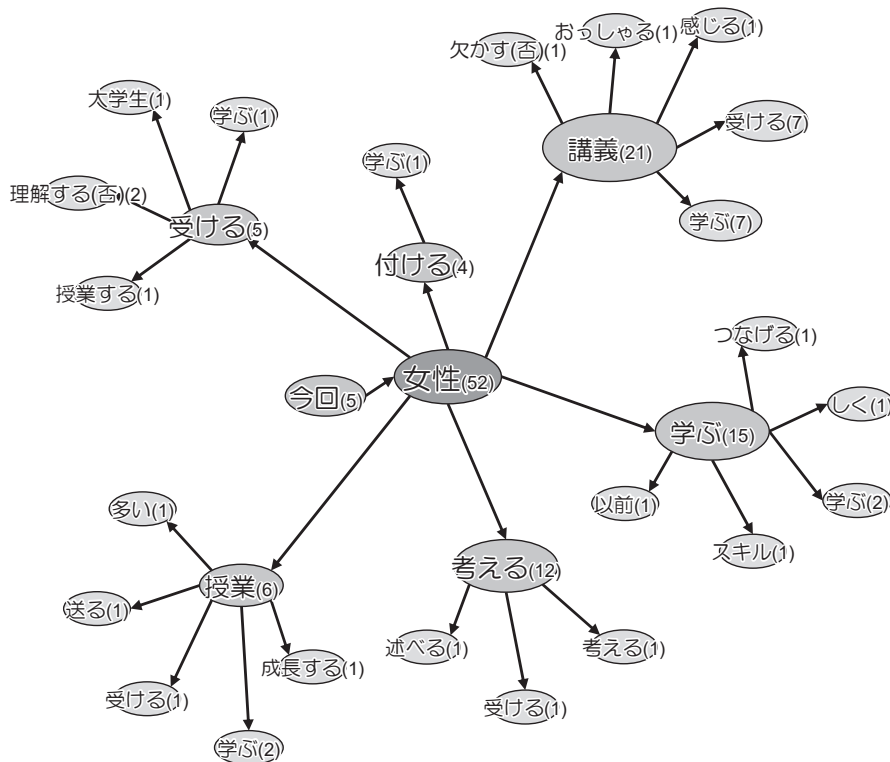


図4 単語マッピング分析 (女性)

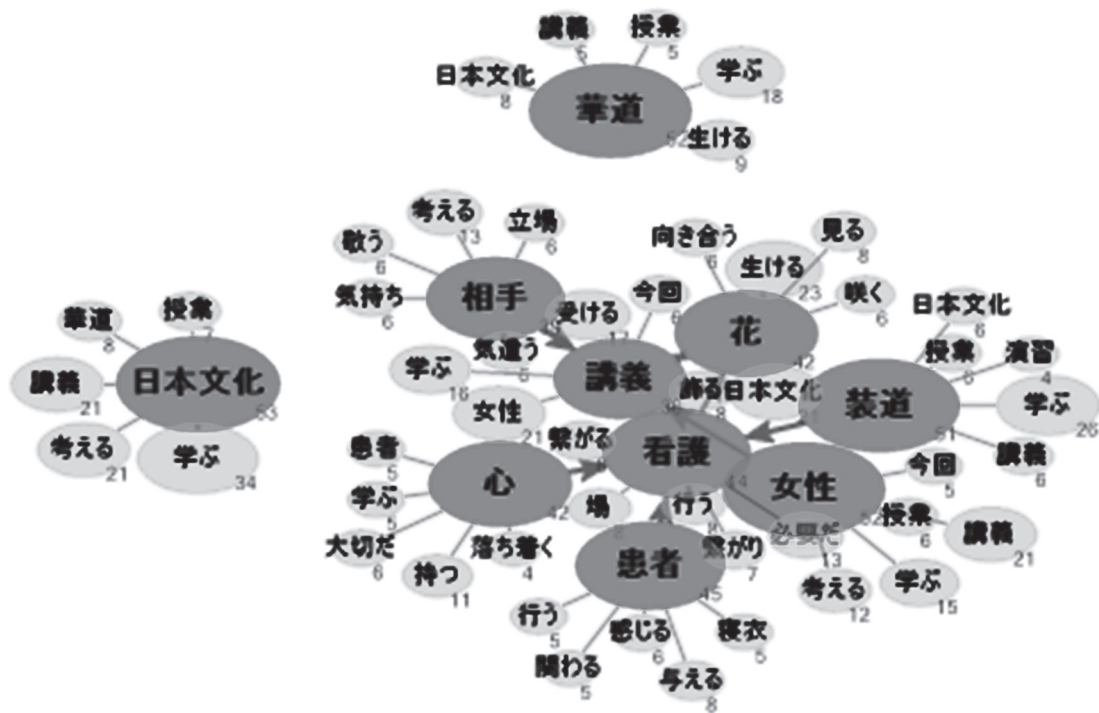


図5 全体マップ分析

表3 ニーズに関する分析

1位	できたこと	53件/53件 (100%)	学べる (21件) 見ることができる (19件) 感じることができる (10件)	これは装道を通して学ぶことができた その季節により、窓から見える景色が違う そこから植物の生命力まで感じることができた
2位	希望すること	50件/53件 (94.30%)	活かしたい (6件) 付けたい (5件) 過ごしたい (4件)	女性としてもこの経験を活かしていきたいと思う 日本文化と私たちが身に付けるべきである一般的なマナーは共通点があり、日常に生かせる学びが多くなることを実感した ここで自分が学んだり、考えたりしたことを活かして過ごしていきたい
3位	できなかったこと	34件/53件 (64.15%)	見ることができない (7件) 欠かせない (4件) 切り離せない (3件)	1つ目は、「見えないところまで」ということだ 日本の文化には、欠かせない行儀である 日本文化と日本の礼儀作法、これは切っても切り離せないものであり、私たちが1番学ぶべきことである
4位	予想外の体験	30件/53件 (56.60%)	させちゃった (4件) しちゃった (3件) 出ちゃった (3件)	そして、これらを生かすことによって、患者を不快な気持ちにさせてしまうことが減るのではないかと考えた 看護の場においても、自分の衣服はもちろんのこと、患者の衣服を死装束にしてしまうことは失礼にあたる これでは日頃の行動がふとした瞬間に出てしまう
5位	容易にできること	8件/53件 (33.96%)	取りやすい (3件) 受け取りやすい (2件) あげやすい (1件)	受け取る側は、取りやすいように渡されたとき、特に何も思わないだろう これは、受け取る相手が受け取るものが見え、受け取りやすいようにするためである 日本の伝統文化を少し思い浮かべるだけでも、華道に装道、書道、茶道、剣道、柔道とあげられる
6位	困難なこと	8件/53件 (15.00%)	こなしにくい (1件) とらわれにくい (1件) 指摘しにくい (1件)	道を通る時何か物をまたがないこと、お暇する時一言声をかけてその場を後にすることは、今では意識しなければそれらをこなすことは私には難しい また、1つのことにとらわれにくくなり、多くの人の意見を取り入れられるようになることで、新たな気づきを得て、何かを解決しようとするときの「選択肢」も多くなると考えられる わたしたちのマナーが出来ていなくても、最近是指摘しづらくなってきていると先生方がおっしゃっていた
7位	疑問に思うこと	5件/53件 (9.40%)	考える? (2件) どうする? (1件) 結ぶ? (1件)	女性と日本文化をどのように考えるか 家族も、「この華どうしたの?」 とおっしゃった時に必要物品を揃えることができ、今回習ったことを将来忘れてしまっても、「帯の結び方は、どのように結ぶのですか?」

VI 考 察

1 調査対象者について

本調査に参加した学生は、社会経験のない（アルバイト等は除く）学生であったため社会経験の有無によって学習動機の強さが異なることが言われているが、社会経験を考慮する必要はないと考える。

2 テキストマイニングから考えられる「女性と日本文化」の学生の考え

単語頻出・全体マップ分析から学生は、患者・看護・心・相手などの単語を使用してレポートを書いているが、これは看護と繋がるキーワードであった。また、相手を敬う・気遣うことの重要性、女性が学ぶこと

の必要性、装道・華道という学んだ日本文化は心を大切にする、寝衣交換など看護の対象である患者に行う行為の技術的な面においても看護と繋がっていると考えていた。今回の結果は、相手(=他者)への「おもてなし」や「心づかい」の精神を体験しており「他者理解」に繋がり、「看護に必要な心(相手を尊重する)」を学んでいた。これは、2018年の筆者らの分析¹⁴⁾と一致した。これらのことから量的分析においても今回のテキストマイニングによるレポート分析においても授業効果は得られ、授業により看護への入り口に繋がっていたと言える。

3 学士課程教育における初年次教育とキャリア教育

「女性と日本文化」は、初年次教育として開講したカリキュラムであるが、キャリア教育につながっていると考える。本授業で、大学教育への入口を整えようとしたことは、出口への方向性を示唆したことであった。

山田はキャリア教育自体は、初年次教育とは別に、大学4年間、さらにはそれよりも先の社会に出て働き続けることのできる、いわば「持続的な就業力」育成を視野に置いて、多くの大学が正規課程内外で取り組んでいる。しかし、初年次教育を通じて、自分の自己の適性と職業適性についての正確な情報を得、将来につなげていくことが、学士課程教育全体へのつながり、そして初年次教育の役割としてみた場合、キャリア教育への接続性が高いことが認識されるようになってきたのではないかと考えられる¹⁵⁾と述べている。また、濱名は、初年次教育には、専門への導入を基本とする導入教育、自分の個性や適性を自己分析し、将来の方向性を考えるという点ではキャリア教育の内容とも共通点がある¹⁶⁾と述べている。そして、絹川は、初年次支援プログラムとキャリア支援プログラムは、自己同一性の確立ということにおいて、同根である。初年次支援プログラムは、初年次学生において大学という空間に自己同一性を確立させる支援である。キャリア支援ということは、社会における自己同一性発見支援である。両者を接続させる本質は、大学における知的活動である¹⁷⁾と述べている。

A大学では、初年次教育として出口の職業を意識させるため認定看護師・保健師・助産師などの講師を招き「看護入門」という学士課程教育プログラムを展開している。これら授業や本授業「女性と日本文化」などにより将来の自分の職業を意識させようとしている。

中央教育審議会は、キャリア教育の定義を一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育と示した。また、同答申の中で「キャリア」について、人は、自分の役割を果たして活動すること、つまり「働くこと」を通して、人や社会にかかわることになり、そのかかわり方の違いが「自分らしい生き方」となっていくものである。人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見出していく連なりや積み重ねが「キャリア」の意味するところである¹⁸⁾と述べている。

4 看護教育におけるキャリア教育の在り方と今後の課題

青年期にある大学生は、自己同一性の確立に至る

段階であり、職業決定はこの時期における最も重要な発達課題である。学部により「キャリア直結型学部」と「キャリア非直結型」の2つがある¹⁹⁾。

看護学生を含む医療系大学生は、一般の大学生と比較して将来の職業イメージが明確になっている場合が多く「キャリア直結型学部」と言われている。しかし、18歳人口の減少に伴い学生確保が困難になってきた状況から、それ以前と比較すると、学習目的・学習習慣・学力・学習動機などが薄く職業イメージが低いなどの多様化した学生が多くなりつつある。また、看護学科は、自己同一性の確立という課題のある青年期の学生が、他の発達段階にある他者の看護・ケアを考察しなければならないという課題を担う学科でもある。加えて、カリキュラムの過密さ、実習等でのストレスなどによりモチベーションが低下し学習の継続が困難になることがある。そのような状況においては、初年次教育が大学生活への適応に効果的である^{20,21)}と言われていることから初年次教育を成功させ在学中に充実した学生生活を送り、社会的職業的自立へと結びつくことが重要である。

山田は、「職業人を養成する」大学にとって、初年次教育とキャリア教育を近接領域として相互補完的にいかに学士課程教育プログラムを機能させるかは、焦眉の急となる課題である。その際に、学士課程教育のプログラムの一環として、初年次教育とキャリア教育を組み込んでいる総合的なプログラムの構築を重視するのか、あるいは就職対策としてのキャリア教育の機能を重視するかでは、目指す方向性も異なることに留意しなければならない²²⁾と述べている。

以上の先行研究から教育の方法の転換という課題が示唆される。学生個々が自己と対峙し自己分析し、どんな医療従事者になるのかを自己で描けることがキャリア教育となる。高等学校までの学びの方法が受動的な学習スタイルであり、大学では能動的な学習スタイルであるため学習スタイルの転換が必要となる。各授業の中で、学生を能動的に学習に参加させる「アクティブ・ラーニング」・「グループ学習」・「体験学習」など教育の方法の転換が必要である。溝上は、アクティブ・ラーニングの定義を一方的な知識伝達型講義を聴くという（受動的）学習を乗り越える意味での、あらゆる能動的な学習のこと。能動的な学習には、書く・話す・発表するなどの活動への関与と、そこで生じる認知プロセスの外化を伴う。「内化」は、「読む」「聞く」等を通して知識を習得したり、活動（外化）後の振り返りやまとめを通して気づきや理解を得たりすること。「外化」は、「書く」「話す」「発表する」等の活動を通して、知識の理解や頭の中で思考したことなど（認知プロセス）を表現すること。可視化（見

える化)とも呼ばれる²³⁾と述べている。

これらのことから本授業の在り方を振り返ると教師(専門の講師)が一方的に知識を伝達するような学習方法ではない。90分の2コマで華道の歴史、浴衣の名称・着装、半幅帯の結び方、おいしいお茶の入れ方などの知識伝達の部分がある。また、講師のロールプレイ後、華を生ける、浴衣・半幅帯を着装しもてなす主人となり、客人にお茶・お菓子をふるまうなどの「体験学習」がある。その過程においてペアで1つの作品を作り上げる議論、それらを鑑賞・評価した後、発表を体験している。授業後は、その日の振り返りをレポートとして提出し、その体験・振り返りの全体を通して「女性と日本文化をどう考えるか」という知識・思考を表現している。これらの授業は、知識伝達の講義を聴くという受動的な学習ではなく、知識を享受しつつ体験し、振り返るという能動的な学習方法をしている。そして、この過程において個(人)から協働へまた個(人)という学習サイクルがあり、これは、内化から外化、そして内化という学習方法をも体験していることである。このような、能動的な学習への参加が、自己同一性の確立に繋がり将来の自分の職業への意識に向かわせていると考える。学生が社会の期待に応えられるような職業人へと社会化が促進されるためには、教師の臨床能力が重要になる。また、学生の職業意識を把握し、適性を促せるような関わりが求められる²⁴⁾。

Ⅶ まとめ

- 1) A 大学看護栄養学部看護学科1年生 授業「女性と日本文化」を受講した53名の「女性と日本文化をどのように考えるか」のレポートをテキストマイニングを使用し分析した。
- 2) 学生は、華道・装道という体験による授業に対して、患者・看護・心・相手などの単語を使用してレポートを書いており、これらは看護に繋がるキーワードであった。
- 3) 本授業は、初年次教育として開講したカリキュラムではあるが、キャリア教育に繋がっていたと考える。看護学科は、キャリア直結型学科であり入学時に職業イメージが明確である場合が多い。しかし、自己同一性の確立という課題のある青年期の学生が、他者の発達段階にある人の看護・ケアを考察しなければならないという大きな課題を担う学科でもある。
- 4) 自己同一性を確立させ社会における自己を肯定的に位置づけるためには、学生を能動的に学習に参加させる教育の方法の転換が必要であるという課題が示唆された。

Ⅷ 研究の限界と今後の展望

今回の研究では、53名の学生を対象とした。そのため対象も少なく、結果・考察で述べたことを一般化することは困難である。今後、対象数を増やし、今回の研究で課題としたことを念頭に教育の検討が必要である。

謝 辞

調査にご協力いただきました対象者の皆様に心から御礼申し上げます。

引用文献

- 1) 川合宏之: 大学における初年次教育の現状と課題, 人間生活文化研究 Int J Hum Cult Stud.(26), 232-236, 2016
- 2) 文部科学省(中央教育審議会答申): 新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育, 大学教育, 大学入学者選抜の一体的改革について～すべての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花ひらかせるために～
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afiedfile/2015/01/14/1354191.pdf (2021/12/08 アクセス)
- 3) 文部科学省: 大学における教育内容等の改革状況について(平成30年度)
https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daigaku/04052801/1417336_00007.htm (2021/12/08 アクセス)
- 4) マイナビ: 大学生生活, 最高のスタートを切る! 多岐にわたる初年次教育
https://shingaku.mynavi.jp/cnt/etc/column/step7/first_year/ (2021/12/08 アクセス)
- 5) 東京理科大学: 初年次教育について
https://www.tus.ac.jp/academics/faculty/firstyear_experience/ (2021/12/08 アクセス)
- 6) 国立教育政策研究所: 大学における初年度教育に関する調査, 2009
- 7) 山田礼子: 大学の機能分化と初年次教育, 日本労働研究雑誌, 54(12), 31-43, 2012
- 8) 文部科学省: 学士課程教育の構築に向けて
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm(2021/12/08 アクセス)
- 9) 大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会最終報告
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/40/toushin/_icsFiles/afiedfile/2011/03/11/1302921_1_1.pdf (2021/12/08 アクセス)
- 10) 前田由紀子, 唐崎愛子, 石田佳奈子他: 看護学科における初年次教育・二年度教育の成果と課題,

- 西南女学院大学, 12.15-24, 2012
- 11) 豊嶋三枝子, 小口多美子: 看護系大学における初年次教育の実態 — 教員への質問紙調査から —, 看護教育, 40, 140-142
 - 12) 牛ノ濱幸代, 大園孝子, 山下美穂他: 講義「女性と日本文化」の効果を測定する項目の検討, 鹿児島純心女子大学看護栄養学部紀要 14, 17-25, 2010
 - 13) 園田麻利子, 牟田京子: 「女性と日本文化」の授業評価の検討, 鹿児島純心女子大学看護栄養学部紀要, 23, 59-67, 2019
 - 14) 前掲書 13)
 - 15) 前掲書 7)
 - 16) 濱名篤: 日本の学士課程教育における初年次教育の位置づけと効果 — 初年度教育・導入教育・リメディアル教育・キャリア教育, 大学教育学会誌, 29(1), 36-41, 2007
 - 17) 絹川正吉: 初年次・キャリア教育と学士課程, 大学教育学会誌, 28(1), 57-61, 2006
 - 18) 文部科学省: 中教審答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2011/06/16/1306818_04.pdf (2021/12/08 アクセス)
 - 19) 渡邊洋子: 初年次教育におけるキャリアの位置づけと教育的対応をめぐって, 創生ジャーナル Human and Society, 38-40, 2018
 - 20) 藤本元啓: KIT ポートフォリオシステムとキャリア教育 — 金沢工業大学 (特集 社会的・職業的自立に向けたキャリア形成教育を考える), 大学教育と情報, 19(2), 7-9, 2010
 - 21) 松尾智晶: キャリア教育の効果と京都産業大学における新たな試みに関する一考察, 高等教育フォーラム, 2, 17-23, 2012
 - 22) 前掲書 7)
 - 23) 溝上慎一: アクティブラーニング型授業の基本形と生徒の身体性, 東信堂, 東京 2018, 44-115
 - 24) 白鳥さつき: 看護学生の職業社会化に関する研究, 山梨医大紀要, 19, 25-30, 2002

The Effects of the “Women and Japanese Culture” Class and Future Challenges

Mariko Sonoda, Kyoko Muta

Department of Nursing, Faculty of Nursing and Nutrition,
Kagoshima Immaculate Heart University

Keywords: women and Japanese culture, first-year education, career education, bachelor’s degree programs in nursing universities, transformation in educational methods, text mining

Abstract

[Objectives] This study aimed to clarify how university students think about “women and Japanese culture” and to examine future challenges.

[Methods] Subjects: Fifty-three first-year students of the Department of Nursing, Faculty of Nursing and Nutrition, University A, who took the class “Women and Japanese Culture.” Methods: A report of more than 1,200 Japanese characters on “How do you think about women and Japanese culture?” submitted after the class was analyzed using text mining provided by Plus Alpha Consulting.

[Results] 1) The number of survey participants was 53, and the collection rate was 100%. 2) Words such as Japanese culture, *kado* (Japanese-style flower arrangement), *sodo* (Japanese *kimono* dressing and etiquette), and women were frequently used. 3) From the overall map, the following points were analyzed: (1) a lecture on viewing and arranging flowers, respecting and caring for others, which women are required to learn and think about; and (2) the Japanese culture of *sodo*, bed clothes, and nursing that leads to the Japanese culture of dressing and sleeping clothes, what to do to the patients involved, the importance of the mind, and calmness

[Discussion] The students wrote reports using words such as patients, nursing, heart, and other person, which were key words connected to nursing, in response to the class through the *kado* and *sodo* experiences. Although this class is a curriculum offered as a first-year education, we believe that it is linked to career education. The Department of Nursing is a department directly linked to careers, and students often have a clear image of their occupation at the time of admission. However, it is also a department where adolescents, who are faced with the challenge of establishing self-identity, must consider the nursing and care of others in their developmental stages. In order for students to establish their self-identity and positively position themselves in society, it was suggested that transformation in educational methods is necessary to encourage students to actively participate in learning.
